

次期中間処理施設整備事業「地域振興策」に関する意見等

印西地区環境整備事業組合
次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会 委員長 福川 裕一 様

意見

平成 27年 7月 15日提出

委員名 渡邊 忠明

先進地の視察先の提案 ⇒ 群馬県川場村「川場田園プラザ」

理由：川場田園プラザは重点「道の駅制度」の「全国モデル」6カ所（6月3日開催「道の駅フォーラム」による。）の一つであるが、道の駅は後付けであって、実は昭和50年代から地域特性を活かした「農」を中心とした地域興しの先駆的活動として着目され、昭和58年には「群馬県川場村における地域間交流からのむらづくりの企画と実践」として日本造園学会賞を受けている。

この活動は川場村の地域特性を肌身で知り尽くした志し、意識、意欲の高い住民と幅広く豊富な地域振興に関する知見・情報・実績を有する、その道の先駆的専門家の三田育雄氏が見事にマッチングし、同じ高さの目線で活動が始まり継続してきたものである。

えてして地域振興は、専門家は「私、教える人」地域住民は「私、教わる人」となりがちであるが、三田氏は同じ高さの目線とともに、コンサル会社社長、次いで東北芸術工科大学教授でありながら、自らも住民とともに各種事業に投資するというリスクをあえて取ることによって、共に汗を流す立場に追いこんでの取り組みが成功に導いたと言われる。

吉田地区における「地域振興策」も「農」を中心に二市一町との地域間交流を如何に活発するかが基本と考えられるところ、学ぶところ、大なるものと拝察致します。

（参考）

三田育雄氏の略歴

東京大学農学部大学院修了、北海道林務部職員を経て、昭和44年（株）ラック研究所設立・社長就任（同時に東京大学農学部非常勤講師）、東北芸術工科大学教授、長野大学環境ツーリズム学部教授（今は退職）